

平成 28 年度第 2 回 高知県産業振興計画フォローアップ委員会水産業部会（議事概要）

平成 29 年 1 月 16 日（月） 13:30～16:00

オリエンタルホテル高知 松竹の間

1 開会

2 水産振興部長挨拶

3 部会員紹介

部会員 9 名出席。1 名は所用により欠席。

4 議事

(1) 第 3 期産業振興計画<水産業分野>の平成 28 年度の進捗状況等

【事務局説明】

資料 1、2 により事務局が説明

(2) 第 3 期産業振興計画<水産業分野>の平成 29 年度の改定のポイント（案）

【事務局説明】

資料 3 により事務局が説明

【質疑応答・意見交換】

(浦尻部会員)

アサリ資源の復活にむけた被せ網の取り組みについてももう少し詳しく教えてほしい。

(三ヶ漁業振興課長)

支柱やペットボトルのようなもので、潮が満ちてきた時に網が浮き上がらないように工夫はしますが、干潟に網をそのまま被せます。従前は着底したばかりのアサリの稚貝をエイやクロダイが相当量食べていましたが、網を被せることで食害が防がれ、平米 3 キログラムくらい成貝が得られるということがわかってきました。

今年度までに 0.6ha ほど網を設置しており、来年度はさらに 3 ha を設置する予定となっています。貝は 2 年くらいで成貝になりますので、今年度まで 0.6ha やってきたところを豊かな海づくり大会がある平成 30 年度に一部解禁したいと考えています。また、3 ha につきましても、4 つや 5 つに区切って輪番で開けていくということを検討しているところです。

(浦尻部会員)

須崎の方で、泥に白点虫や赤潮の原因があるのでその泥をとって固めて魚礁にするといった話もあるようですが、内容について教えてほしい。

(三腎漁業振興課長)

現段階では、市が地元と話をした中で、浚渫、泥をとることに合意がとれていない状況で、それを固めて魚礁にするといった話も今のところ前に進んでいません。

(浦尻部会員)

市場統合に関して、今後、県としては県内で何市場を目標としているのか。

(宮本合併・流通支援課長)

資料1の2ページに産地市場の集約化の4年目のところになります。平成31年度に28市場という目標でやっています。

(近藤水産振興部副部長)

魚礁について補足説明です。魚礁については昭和の時代にコンクリート魚礁をかなり大規模にやってきました、総事業費で約250億円位沈めてきました。一定規模以上の魚礁はこれまでやってきた中で必ずしも費用対効果を得られているということではないということで、県としては事業を休止している状況です。その中で、高齢者向けの沿岸域での投石、つきいそなど小規模なものやっぺいこうということで改めて方針を打ち出したところで

す。ご質問のあった泥をとって固めてといった話はお声としてはありますが、底をかき混ぜますので、養殖魚に被害を及ぼす白点虫を発生させるリスクがあるということ、マウンド魚礁、海底山脈という大規模な魚礁の設置は事例が少なく、既存の国の事業では、最低でも4分の1の地元負担が必要になります。事業費自体が100億円規模でありますので、25億円であるとかそういった単位の負担が必要ということで、もう少し勉強させていただきたいとそういった状況です。

(山下部会員)

ハマチの流通は、去年まで市場中心だったが、昨年の秋ごろから量販店からの引き合いも強くなっている。また、ハマチはサーモンの高騰に連動して国内市場で伸びていくことが想定されている。

マグロの人工種苗を作っていくことは素晴らしいし、やっていくべきことだと思う。しかし、平成28年度のクロマグロの稚魚の池入れ尾数が多かったため、2年先にはマグロ価格は低迷すると言われている。

こういった生の情報は計画に練り込まれているのか。生の情報を計画に活かしていくべきだと思う。

(宮本合併・流通支援課長)

例えば、新たな民間企業による宿毛地域への加工参入の話の中では、クロマグロが2年後には価格が低迷するだろうといういことで、今後は海外市場にも展開していかなければならないだろうということを想定し、新たな加工場を作って海外展開していくということを伺っていることが一つございます。

また、ブリの価格についても、サーモンの価格との因果関係は承知していませんが、養殖魚の場合は、需供バランスによって価格が大きく変動します。その中の一つの考えとして、国内市場だけに頼っていては厳しいので、輸出などの支援をしていかなければいけないという考えです。

(竹内水産振興部副部長)

平成28年度は、天然マグロは稚魚も含めて豊漁であったため、2年後の価格低迷は想定されるわけですが、一方、太平洋のマグロについては、国内外から厳しい意見も出ておりまして、中長期的には天然マグロは獲りづらくなるということが想定されていますので、そういうことを踏まえながら、如何に高知県の県益を守っていくのかということを視点に計画をつくってまいりたいと考えています。

(山下部会員)

ぜひ頑張っていたきたいところだから、あえて厳しい意見を言わせていただきました。

(山本部会員)

マグロの種苗生産は期待したいし、ぜひ頑張っていたきたいと思います。先ほどの説明で、現状では人工種苗は天然種苗より高いということでしたが、今後、どの程度増産していけば目処が立つのでしょうか。

(竹内水産振興部副部長)

人工種苗として採算ベースに乗せていくには、3万尾以上の生産が必要ということが想定されております。そうした中で、人工種苗の生産に取り組む事業者が利益を確保していくという面で種苗生産にあわせて養殖にも参入していくという考えを持っておると聞いております。

(三觜漁業振興課長)

ちょっと補足させていただきますと、4cmサイズの沖出し尾数が10万尾、中間育成後

の 30cm の生産が 3 万尾になるのが平成 36 年頃の見通しで事業者の方で計画を組んでいるところでは。

(浦尻部会員)

遊漁に関しては非常に期待がある。宿毛湾では、漁協集落はほとんど空き家になって人がいなくなっています。そこに外から人がきて、お金が落ちるんだったらなんとかしたいという意向を持っています。

例えば、宿毛湾ではやがて港湾ができます。港湾の防波堤は魚が付きます。安全を確保して家族釣りができるようにしたいなど考えていますが、どうでしょうか。

(水産振興部近藤副部長)

まさにご意見のとおりで漁村に多様な仕事をつくるという取り組みの一環で、地域本部、漁業指導所、市町村と一緒に計画を練り上げているところです。

今、浦ノ内の釣り筏が先行して取り組んでおりますが、民間の事業者が自ら進める事業をサポートするという側面もありますし、漁港施設を活用して釣掘りにするなどの取組も視野に入っております。

(清岡漁港課長)

港湾は管轄ではないんですが、以前に須崎の方で津波防波堤を活用したいという話がありました。国体の年だったと思いますが、それが今、実現できていませんので、安全対策の面で難しい所があるのではないかと考えております。

(浦尻部会員)

そういったこともチャレンジしなければいけないのかなと思っています。

(森岡部会員)

追加資料 3-2 の土佐清水のクラスターでメジカの残さいの話がありました。宿毛の方でも順調に加工量が増えているという話でしたが、こちらの残さいの流れはどうなっているのでしょうか。また、今後は増えた残さいをどのように処理していくのでしょうか。

(宮本合併・流通支援課長)

宿毛湾の養殖魚の加工残さいや養殖の死魚については、県内外の民間事業者が引き取っています。既に処理する仕組みが構築されていますので、新たな施設整備や新たな処理業者の参入は困難であると考えております。宿毛では県内外の処理業者が、漁協、業者と契約して残さいを処理しているのが現状だと認識しております。

(浦尻部会員)

加工残さいは買い取ってもらっていますが、養殖の腐敗したようなものは、お金を払って引き取ってもらっています。

(森岡部会員)

加工量は増えていますが、適切に残さいの処理は出来ているということですね。

担い手の関係では、地元の子に残ってもらうという視点で、高校などに地元の漁業者の方が行って教えるような活動はやっていますか。

(三觜漁業振興課長)

海洋高校の生徒に室戸と幡多地域で、1泊2日位の日程で勉強していただく。例えば、室戸であれば大型定置網に乗っていただく、奈半利町の造船場をみていただくとか、海洋高校の生徒に漁業に興味を持っていただく取り組みを行っております。

高校生が直接、独立型の漁業をはじめるということはなかったんですが、養殖業の従業員になった方はいるようにも耳にしております。

(澳本部長)

カツオの一本釣りではインドネシアからの実習生の受入れがなければ操業ができない状況になってきています。そのような中で室戸の研修生の受け入れ施設が老朽化して、これを建て替える時期に来ているという問題があります。

それから、漁業者が高齢化している中で廃業に追い込まれる定置網もありました。こういった中で、まき網や定置網などは外国人実習生の受入れも考えていかないと、ますます窮地に立たされるのではないかと考えています。日本人が来てくれればいいですが、実際には募集をかけても日本人が集まらない中で、その辺りのことをどのように考えているのかを伺えたらと思います。

(三觜漁業振興課長)

室戸の研修センターですが、室戸に旧保健所の建物があり、今その施設が使えないかということを、保健所を管轄する課と協議をし、なんとか使えるんじゃないだろうかという状況です。ただ、そこを使うのであればリニューアルする部分も必要ですのでそのあたりをどのようにするか検討を進めているところです。

(浜渦宿毛漁業指導所長)

まき網では雇用される方が不足しているということで、昨年から外国人研修が利用できないかということで検討を始めています。研修の事務をしている団体に費用などを確認してきました、費用的な面などから外国人研修制度を活用できると見込んでおり、再来年く

らいから外国人研修制度を活用していこうと検討しているところです。

(澳本部長)

できるだけ漁業の灯を消さない方法を検討していくよう協議していかなければいけないと思いますのでよろしくお願いします。

もう1点。許可漁業のシラスパッチ網の片船のエンジンには馬力規制がかかっており、現在使用しているエンジンを修理するといっても部品がなく修理できないという状況があります。また、地区ごとに漁場を分けていますので、入り合いにできないだろうかということなどもあります。

漁業調整の問題なので漁協が地元調整をしなければいけない部分もありますが、漁業生産の維持拡大を進めていく中で、許可漁業のなどの規制緩和についての県の考えを教えてください。

(竹内水産振興部副部長)

漁船エンジンの馬力制限や許可区域の問題など、漁業権、許可漁業の規制緩和については、地元調整が整った段階で順次緩和してきました。引き続き、漁協さんと連携を取りながら規制緩和の方向でやっていきたいと思っています。

5 報告事項

(1) 産業振興計画フォローアップ体制について

参考資料3により事務局が説明

(2) 幕末維新博の紹介

参考資料4により事務局が説明

以上